日本初記録コノドジロムシクイについて

和田祥司・佐藤理夫

First Record of the Lesser Whitethroat *Sylvia curruca* in Japan

Shoji WADA and Michio SATO

1994年10月11日の早朝に、北海道函館市西桔梗町(北緯41° 50', 東経140° 43', 標高20m)で行った鳥類標識調査の際にカスミ網で捕獲された個体が、日本初記録のコノドジロムシクイ *Sylvia curruca* であることが判明したので報告する(Fig. 1).

この個体は捕獲当時、種が明確に同定できなかったため、足環をつけず放鳥した。しかし、種同定の検討のために計測と写真撮影をおこなった。計測値は、翼長: 60.5mm, 尾長: 54.5mm, ふたば長: 19.7mm, 露出嘴峰長: 8.9mm, 全長: 119.0mm, 翼開長: 163.0mm, 翼式は7 8 6 5 9 4 3 2 1であった。種同定の鍵となる羽色は、頭部が灰色で過眼線が黒くはっきりしていること、喉が白く首の方に回り込んでいること、尾羽が12枚で最外侧羽の羽軸の外弁が白いこと、さらにふたばが黒っぽいことなどが挙げられる。ちなみにこれらの特徴はSvensson(1992)がコノドジロムシクイに関して記している種識別の判断基準の記載に一致することから、本種と判断した。また、Svensson(1992)が頭蓋骨の発達過程をA~Eの段階に区分した頭骨気室化指標で、成鳥の特徴である気室化した部分が頭蓋骨全体を覆ったE段階であること、本種の年齢の判別点である尾羽の先がすり切れていたが、最外侧羽

Fig. 1. The Lesser Whitethroat *Sylvia curruca* captured at Nishikikyo, Hakodate, in southern Hokkaido, on 11 October 1994.

キーワード: コノドジロムシクイ, *Sylvia curruca*, 函館市, 標識調査, 日本初記録.

Key Words: Lesser Whitethroat, *Sylvia curruca*, Hakodate, Bird Banding, First record.

の羽軸の外弁が明らかに白いこと、虹彩がやや灰色を帯びた茶色であることから成鳥と判断した (Svensson 1992)。本種は雌雄同型であるため雌雄は不明であった。

本種は、繁殖地として、西はイギリス、フランス中部と南東部、北部イタリア、バルカン半島、北は北亜区の南部および中央スカンジナビア半島からシベリアまで、東はモンゴルと中国北西部、南は小アジア、イラン、アフガニスタンに分布し、越冬地として、赤道までの北東アフリカからアラビア半島を経て、パキスタン、インド、ネパール、スリランカに分布する (Svensson 1992, Cramp 1992, Baker 1997)。つまり、夏季においてはユーラシア大陸に広く分布し、冬季においては、赤道までのアフリカ大陸、中近東、東アジアに広く分布している。変異に富み、8亜種または9亜種が知られている。Svensson(1992)は野外調査が詳細に行われた8亜種について記述し、Cramp (1992)とBaker (1997)は9亜種について記述している。いずれにしても分類する上で、亜種間の変異が複雑で (Svensson 1992, Cramp 1992, Baker 1997)、亜種まで特定するのは容易ではない。しかし、分布域として、オビ川の東に広がるシベリアにまで分布することや頭部の眼先から耳羽まで伸びる黒みの強い褐色を呈した形態上の特徴、そして、翼式における初列風切9番目の羽の長さが5番目と4番目の羽の長さの中間であること、などを考慮し、本種は *S. c. blythi* である可能性が高い (Svensson 1992, Cramp 1992)。

本種の秋の渡りについては、西シベリア平原では主に8月～9月で、一部に10月中旬と11月にも記録がある (Cramp 1992)。当日および前日の天候は、晴れて穏やかであったが、大陸から西および北西よりの風が吹いていたことから、今回記録された個体は、繁殖地から越冬地に向かう途中、何らかの原因で大陸からの卓越する西および北西の風に影響を受けて迷行したものと考えられた。

本報をまとめるにあたり、北海道大学水産学部小城春雄教授には原稿を校閲頂き貴重な助言を頂戴した。佐藤文男、茂田良光の両氏には文献収集に際し貴重なご助言とご助力を頂いた。これらの方々に、厚くお礼を申し上げる。

SUMMARY

On 11 October 1994, one Lesser Whitethroat *Sylvia curruca* was captured during banding research at Nishikikyo, Hakodate-shi, Hokkaido. Measurements were wing 60.5mm, tail 54.5mm, tarsus 19.7mm, exposed culmen 8.9mm, total length 119.0mm and wing span 163.0mm. The bird showed a grey crown, with distinctly contrasting dark lores and ear-covers, white throat, white on outermost tail feathers and dark slate-colored legs. These characteristics are consistent with descriptions for this species by Svensson(1992) and Baker(1997). In addition, a skull ossification index of E, combined with frayed edges on the tail feathers, greyish-brown iris and distinct white markings on outermost tail feathers, suggested that the bird was an adult. Sex and subspecies could not be positively identified, but given the geographical location and relative length of primary feather, *S. c. blythi* was considered likely. The Lesser Whitethroat breeds widely across the Eurasian continent, and winters from Africa to southern Asia. This was the first record for this species in Japan.

引用文献

- Baker, K., 1997. Warblers of Europe, Asia and North Africa. Christopher Helm, London.
- Cramp, S., ed. 1992. The Birds of the western Palearctic. Vol. VI. Oxford Univ. Press, Oxford.
- Svensson, L., 1992. Identification Guide to European Passrines, 4th edn. Stockholm.
- 山階鳥類研究所標識研究室, 1986. 鳥類標識マニュアル (第9版). 山階鳥類研究所.

和田祥司

〒041-0812 北海道函館市昭和 1-26-10

Shoji WADA

1-26-10, Showa, Hakodate-shi, Hokkaido 041-0812

佐藤理夫

〒040-0044 北海道函館市青柳町17-1

市立函館博物館

Michio SATO

Hakodate City Museum,

17-1, Aoyagi-cho, Hakodate-shi, Hokkaido 040-0044